73 しものせき 下関

（山口県下関市）

注目 ポイント ！

○ 「壇ノ浦合戦」、「巌流島の決闘」などの歴史体感ツールによる観光振興。

○ 海峡を活かした広域観光を推進。

観光入込客数が約290万人（H12）から約340万人（H16）に増加！
海峡花火大会に100万人以上※の来場

※北九州市の入り込み客も含む

関門海峡

◇◇ コラム ◇◇

老舗旅館の若大将を務めるかたわら、しものせき観光キャンペーン実行委員会の副会長や異業種交流･未来工房下関塾長などでも活躍する、下関観光業界の若手オピニオンリーダー。

観光振興には、まちづくりの視点が重要。市民力と官民が一体となった地域力を高め、観光振興につなげていきたいと意欲を燃やす。

（株）寿美礼専務取締役
和田 健資氏

これまでの経緯

昭和６３年（１９８８）	関門海峡花火大会を北九州市と提携して実施する。
平成　７年（１９９５）	長府で街づくり協定が結ばれる。
平成　８年（１９９６）	長府の歴史的町並みを保全する取り組みが始まる。 「観光都市宣言」
平成　９年（１９９７）	下関市、北九州市、山口県が関門海峡観光推進協議会を設立する。
平成１２年（２０００）	しものせき観光キャンペーン実行委員会が設立される。 （ソフト面での受入態勢を強化、部会を中心とした若手中心による運営）
平成１３年（２００１）	下関市立水族館「海響館」、新「唐戸市場」がオープンする。
平成１４年（２００２）	シーサイドモール「カモンワーフ」がオープンする。
平成１５年（２００３）	巌流島の整備が完了する。
平成１６年（２００４）	「全国都市再生イン下関」を開催（「海峡を活かした広域観光まちづくり」をテーマに、滞在型観光戦略、地域振興などについて議論）。
平成１７年（２００５）	みもすそ川公園オープンカフェ等の社会実験を実施する。

※当該地域は「わたしの旅１００選」（平成１７年）として選定されたプランに含まれています。

主な取り組み

海峡を活かした広域観光の推進

関門海峡を一つの観光資源として取り組む、関門海峡観光推進協議会を設立。水族館やカモンワーフなどのウォーターフロント整備とあわせ、市民の台所「唐戸市場」の全面改修を実施。改修を契機に観光資源としても注目され、セリや魚食実習などの体験ツールが人気を呼んでいる。

平成15年には、当地域の地域資源を活用した新たな滞在型観光を目指す「下関海峡パノラマ構想」を官民協働で立案。

みもすそ川公園でのオープンカフェやロープウェイ再開等の社会実験を行い、市民と観光客がともに楽しめるまちづくりを推進する。

北九州市門司とタイアップして行う関門海峡花火大会は、北九州側を含め毎年100万人以上の人でにぎわう。

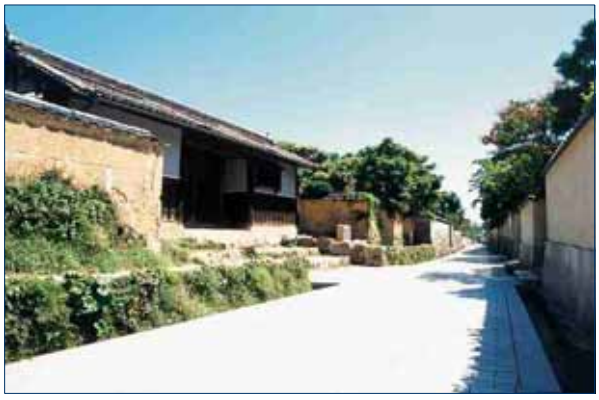
海峡花火大会

唐戸市場

城下町長府の景観保全と活用

土塀や町屋など城下町の佇まいが残る長府。住民らが街づくり協定を締結し、観光地としての魅力と、住民のやすらぎを両立する町並み保全を推進する。

長府まちづくり協議会は、「長府時代祭り」を行うなど、歴史的町並みを活かしたまちづくりを進めてきた。しものせき観光キャンペーンでは、住民の参加･協力を得て「城下町長府クイズラリー」を行う。



城下町長府の町並み

歴史体感型観光ツールの開発（しものせき観光キャンペーン実行委員会）

源平合戦「壇ノ浦の戦い」から、武蔵･小次郎の「巌流島の戦い」や幕末の奇兵隊など、日本の歴史が動く時、いつもスポットライトを浴びてきた下関。この歴史資源を、観光に活かすために、「しものせき観光キャンペーン実行委員会」では、市民ボランティアなどの協力で行う歴史体感型の観光ツールを開発し、リピーターの獲得を目指す。平成18年度は、「義経八艘飛び」から「Musical維新～奇兵隊～」まで、時代の潮流を赤間神宮の階段を舞台にして上演する「源平night　in赤間神宮」をはじめ、カモンワーフ前で行う観光寸劇「怪談耳なし芳一」や、みもすそ川公園等で行う歴史体感☆紙芝居など、魅力あるツールを用意している。

みもすそ川公園での歴史体感☆紙芝居

問い合わせ先

○下関市観光産業部観光振興課
Tel：0832－31－1350　http://www.city.shimonoseki.yamaguchi.jp/kanko/
○しものせき観光キャンペーン実行委員会
Tel：0832－31－1350　http://www.navitown.com/kanko/index.html